

ドラッグ イン フォメーション

平成 28 年 4 月改訂

販売名	タンナルビン「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 タンニン酸アルブミン	発売年月	1961 年 1 月	
洋名	Alubumin Tannate	薬価収載年月	1961 年 1 月	
一般名	タンニン酸アルブミン	薬価	1g 7.40	健保適用
剤形	散 剤	日本標準商品分類番号	8 7 2 3 1 2	
規制区分	普通薬	YJコード	2312001X1189	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2312001X1189	YJコード	2312001X1189	

禁 忌	<p>【禁忌（次の患者には投与しないこと）】</p> <p>1. 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌（O157等）や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある〕</p> <p>2. 牛乳アレルギーのある患者〔ショックまたはアナフィラキシー様症状を起こすことがある。〕</p> <p>3. 経口鉄剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照）</p> <p>4. 本剤に対して過敏症の既往歴のある患者</p>												
原 則 禁 忌	<p>【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】</p> <p>細菌性下痢患者（治療期間の延長をきたすおそれがある。）</p>												
組 成	<p>本品はアルブミンとタンニン酸との化合物である。</p> <p>たん白質の基原は乳性カゼインである。</p> <p>（当社のタンニン酸アルブミンは、アルブミンとしては牛乳由来のものを使用している。）</p>												
性 状	<p>本品は淡褐色の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがある。</p> <p>本品は水又はエタノール（95 にほとんど溶けない。</p> <p>本品は水酸化ナトリウム試液を加えるとき、混濁して溶ける。</p>												
効 能 ・ 効 果	下痢症												
用 法 ・ 用 量	<p>タンニン酸アルブミンとして、通常成人 1 日 3 ～ 4 g を 3 ～ 4 回に分割経口投与する。</p> <p>なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>												
使 用 上 の 注 意	<p>1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）</p> <p>肝障害のある患者（肝障害を悪化させることがある）</p> <p>2. 相互作用</p> <p>(1)併用禁忌（併用しないこと）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">薬剤名等</th> <th style="width: 33%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 33%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経口鉄剤 インクレミンシロップ、 フェロミア、フェルム、 フェロスレオン、フェ ロ・グラデュメット</td> <td>経口鉄剤との併用により、相互に作用が減弱することがあるので併用しないこと。</td> <td>鉄とタンニン酸が不溶性の塩を形成するため。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)併用注意（併用に注意すること）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">薬剤名等</th> <th style="width: 33%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 33%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩酸ロペラミド</td> <td>塩酸ロペラミドの効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をあけるなど注意すること。</td> <td>本剤が塩酸ロペラミドを吸着するためと考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	経口鉄剤 インクレミンシロップ、 フェロミア、フェルム、 フェロスレオン、フェ ロ・グラデュメット	経口鉄剤との併用により、相互に作用が減弱することがあるので併用しないこと。	鉄とタンニン酸が不溶性の塩を形成するため。	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミドの効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をあけるなど注意すること。	本剤が塩酸ロペラミドを吸着するためと考えられる。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
経口鉄剤 インクレミンシロップ、 フェロミア、フェルム、 フェロスレオン、フェ ロ・グラデュメット	経口鉄剤との併用により、相互に作用が減弱することがあるので併用しないこと。	鉄とタンニン酸が不溶性の塩を形成するため。											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミドの効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をあけるなど注意すること。	本剤が塩酸ロペラミドを吸着するためと考えられる。											

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー様症状（頻度不明）

ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、蕁麻疹、顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類\頻度	5%以上又は頻度不明
長期・大量投与 ^{注)}	肝障害
消化器	便秘、食欲不振

注) 長期又は大量投与を避けること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

配合変化

アルカリにより分解する。抱水クロラールやヨウ化物と混合すると湿潤する。レゾルシン、ヘキサミンとの混合物は湿潤することがある。

薬効薬理

タンニン酸は正常な皮膚にはほとんど作用しないが、表皮の剥離した皮膚に塗ると、たん白と結合し薄膜を形成して機械的に保護する。また、タンニン酸は、酸性並びに中性溶液で、その収れん作用を呈するが、本剤はタンニン酸アルブミンと結合し、かつ加熱して硬化処理を施してあるため水に溶解せず、口腔、胃では作用が現れない。腸に至って初めて徐々にタンニン酸を遊離し、全腸管にわたって緩和な収れん作用を及ぼし、しかも胃障害を起こすことがない。

薬物動態

内服した場合、腸に至って初めて唾液により徐々に分解し、タンニン酸を遊離する。タンニン酸は小腸で加水分解を受け没食子酸となり体内に吸収され、没食子酸、そのO-メチル体及びそれらのグルクロニド、ピロガロールとして尿中に排泄される。

毒性

タンニン酸は肝臓毒で、かなりの量が吸収されると小葉中心性壊死をきたす。

取り扱いの注意

1. 本品は原料に天然品が含まれているので、製品の色調やにおいが一定しないことがある。
2. 本品のアルブミンは牛乳タンパク由来であるので、ミルクアレルギーの患者には慎重に投与すること。
3. 貯法：遮光した気密容器

備考

包装単位：500g

文献
請求先

吉田製薬株式会社 学術部
東京都中野区中央5-1-10